

①露心庵跡  
天正11年(1583)にこの付近で行われた合戦の戦死者を弔うために建てられた小堂の跡です。ここから西が亀山宿となります。

②巡見道・本町広場  
東海道と巡見道との分岐点です。巡見道は東海道から分かれて鈴鹿山脈の東麓を縦貫して中山道へ抜ける道で、江戸時代に各地の政情を査察する巡見使が通ったことからこの名があります。

③福泉寺山門  
福泉寺は平安時代に創建されたと伝えられる古刹です。山門は寛政7年(1795)の建立で、近世の地方有力寺院の典型的な建築例として、平成8年に市指定文化財(建造物)に指定されています。



④法因寺左巻きカヤ  
推定樹齢300年の巨樹で、実に見られる堅筋が左巻きとなる珍しいカヤの木です。昭和26年に市天然記念物に指定されています。



⑤高札場跡  
亀山城大手門前一带は、宿の中心の位置となり、高札場跡が集中していました。大手門から高札場にかけては広場となっており、城主在城時に諸大名が亀山宿を通過する際は、「御馳走」と称して出迎える儀礼を行うならわしとなっていました。

⑥遍照寺本堂  
文久2年(1862)に建てられた亀山城二之丸御殿の大書院と式台部分を、明治5年に移築したものです。壮大な大名御殿の姿を示す貴重な遺構です。



⑦龜山市歴史博物館  
亀山藩主遺品や亀山宿・亀山城復元模型など、亀山市の歴史文化に関する資料が収蔵展示されています。企画展のほか、年に数回テーマ展示を行っています。入館料 大人200円(80円) ※(内は20名以上の団体 休館日 火曜日 10:59-18:31 3000



⑧善導寺  
元は亀山城本丸付近にあり、岡本宗憲が築城するにあたって現在地に移転したと伝えられる古刹です。境内には亀山城本丸から出土した石造物が安置されているほか、墓地内には江戸時代初期の亀山城三宅康信室である清光院墓塔や藩校明倫舎学頭の柴田右仲墓(市史跡)があります。



(梅蔵寺)

⑨龜山藩主石川家菩提寺  
亀山城付近には、龜山藩主石川家菩提寺である、梅蔵寺、本宗寺、本久寺があります。これらの寺はもと亀山にあった寺ではなく、石川家の転封にともない移転や創設されたものです。石川家歴代藩主の墓は大部分が江戸の大久寺にあり、亀山にはありませぬ。なお、本宗寺本堂は、亀山城三重櫓の旧部材を使って建立されたものです。

オランダ商館員が見た亀山宿  
長崎出島にあったオランダ商館の館長は、将軍に謁見するため、長崎と江戸の間を旅行が残っています。ケンベル(ドイツ人医師)の「江戸参府旅行日記」、シーボルト(ドイツ人医師)の「江戸参府紀行」などですが、特にケンベルは亀山宿を詳細に記述しています。  
〔元禄4年(1691)4月14日 江戸から長崎に向かった折〕  
「亀山は大きな豊かな町で、二つの平らな丘の上であり、真ん中に小さな谷が通っていた。門が一つと土壘と石垣があったが、曲がった村のようになつた道には、郭外の町々の家を除き、約2000戸の家があり、右側には堀や土壘や石垣をめぐらした城がある。」  
〔江戸参府旅行日記 平凡社 1977年 斎藤信訳〕

心形刀流武芸形  
伊庭是水軒が創始した剣術の流派で、江戸四大道場の一つに数えられます。その奥義を学んだ山崎雪柳軒が亀山に道場を設立し、亀山藩の流儀となりました。現在は赤心会によって亀山にだけ継承されています。昭和50年に三重県指定無形文化財に指定されています。



亀山宿の町家建築  
亀山宿の街道沿いには、古い町家が点在しています。その前面意匠は、1階が出格子戸・格子戸などを並べ、建てられた当時の「すり上げ戸」が残っているものもあります。2階は化粧貫を見せた黒漆喰壁や格子戸・戸袋などが並びます。軒は1階庇、2階軒ともに、梁を建物から突き出して桁を受ける「出桁造り」と呼ばれる形式です。亀山宿の町家の代表的な例が旧館家住宅です。



⑩旧館家住宅(枳屋)  
枳屋は幕末から大正にかけて呉服商を営んでいた大店で、現在の主屋は明治6年(1873)に建てられました。亀山宿を代表する商家建築として平成19年に市指定文化財(建造物)に指定されています。



⑪飯沼惣斎生家跡  
飯沼惣斎(1783-1865)は、亀山西町で西村守安の次男として生まれました。12歳で美濃大垣の飯沼長頭のもとに身を寄せ、後に飯沼家に養子に入りました。京都で漢方医学と本草学を学び、さらに江戸に出て蘭学を修め、大垣で医者を開業しました。50歳で引退後、研究に没頭しわが国で初めてリンネ分類法による植物の分類を行い、「草木図説前篇」を著しました。旧来の本草学を科学的に立証された植物学へと転化させ、また、火薬調査や写真撮影法の研究を行うなど、わが国の近代科学の礎を築いたひとりです。



⑫加藤家屋敷跡  
加藤家は江戸後期の亀山城主石川家の家老職で、その屋敷地の大半が良好な状態で残されています。江戸時代武家建築の状況を示す貴重な例として、長屋門・土蔵が市指定文化財(建造物)に、敷地の大半が市史跡として指定されています。



志賀直哉と亀山  
志賀直哉(1883-1971)は、宮城県石巻市生まれの小説家です。わが国における私小説の様式を確立し、「小説の神様」と賞されています。志賀直哉の生母は亀山の出身であることから、若くして亡くなった母の面影を求めて亀山を訪れます。17年の歳月をかけて執筆した長編小説である「暗夜行路」には亀山から亀山城跡などを巡った情景が描写されています。





## 亀山宿

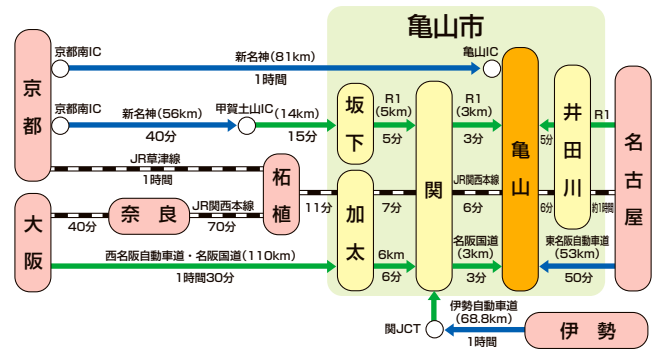
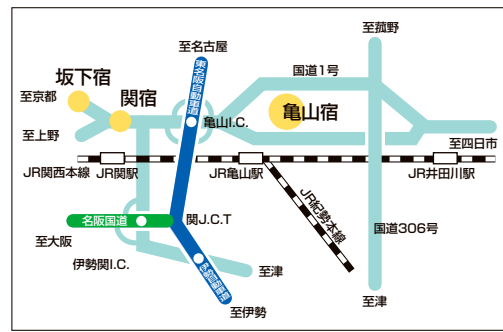
亀山宿は、いつごろ町が立てられたかは定かではありませんが、文明14年（1482）の文書に「亀山」とあることから、15世紀の終わりには町が成立していたとみられ、発掘調査の結果もこれを裏付けています。16世紀中ごろには亀山城が築かれ、以後は関氏の城下として発展したことがうかがえます。江戸時代には、東海道53次の江戸から数えて46番目の宿場町として、露心庵から京口門までの約2.5kmにおおよぶ宿となります。宿の置かれた亀山町は東町・西町からなり、さらにその中が9つの町に分けられていました。城下と併せた町の規模は大きいのですが、本陣・脇本陣は各1軒しかなく、江戸後期の段階で旅籠も21軒と多くありません。伊勢参詣の経路からは外れているため、紀行文などでは「さびしき城下」と表現されていることもあります。本陣や高礼場など宿の主要な施設は失われていますが、宿内の随所にかつての面影を留めています。



## 伊勢亀山城

伊勢亀山城は、文永2年（1265）に関実忠が若山の地に築いたと伝えられます。中世の亀山に勢力を誇った関氏の居城で、現在の場所に16世紀中ごろまでには移っていたと考えられます。天正18年（1590）、岡本宗憲によって天守を築造するなど修築を行い、本多俊次が寛永13年（1636）から3か年を掛けて行った大改修によってほぼ現在の城地が確定しました。東海道の要衝ということもあって、城主はその多くが譜代大名で、延享元年（1744）に石川総慶が入城後は、明治まで石川家が城主を務めました。なお、丹波亀山城（京都府亀岡市）の天守を壊すように命じられた堀尾忠晴がまちがえて伊勢亀山城の天守を取り壊したと伝えられ、以後天守は再建されませんでした。明治6年（1873）の廃城令により城内の建造物はその大部分が取り壊されましたが、現在は本丸東南隅の多門櫓と石垣（県史跡）、外堀、二之丸から西出丸の北側の土居が良好な状態で残っています。また、多門櫓は、平成23・24年度に行った「平成の大修理」により江戸時代後半の姿に復原され、平成27年3月5日に県有形文化財（建造物）に指定されました。

### 交通のご案内



### ■見学される皆様へお願い

- 亀山宿の旧東海道の散策に当たっては次の点にご留意ください。
- ・旧東海道沿道は歴史遺産であると同時に、生活の場でもあります。マナーを守って散策をお楽しみください。
- ・狭い道のうへ、生活道路のため交通量が相当あります。歩行中の安全は各自十分お気をつけください。
- ・ゴミは各自お持ち帰りください。



亀山市携帯サイト

亀山市 生活文化部 文化スポーツ課 まちなみ文化財グループ  
〒519-1192 三重県亀山市関町木崎919-1  
TEL <0595> 96 - 1218  
FAX <0595> 96 - 2414  
E-mail : bunkazai@city.kameyama.mie.jp



古地図・P44-7配合車 100%再生紙を使用

## 亀山宿に観る今と昔

### お城見庭園

**地図 A**

亀山宿西町間屋跡跡付近から亀山城多門櫓を望むビューポイントに、地域の皆さんとのワークショップによって完成したミニ庭園。脇の坂道はかつての醤油屋の前であること、人々が集い溜まる場でありたいとの願いから「たまり坂」と名付けられました。

### 京口門跡

**地図 B**

亀山城下の西の入口です。門と番所を構え、その壮麗な姿から「亀山に過ぎたるもの」の二つあり伊勢屋ソテツに「京口御門」と謳われ、また「歌川広重などの浮世絵では大半がこの京口門が描かれています。

### 江戸口門跡

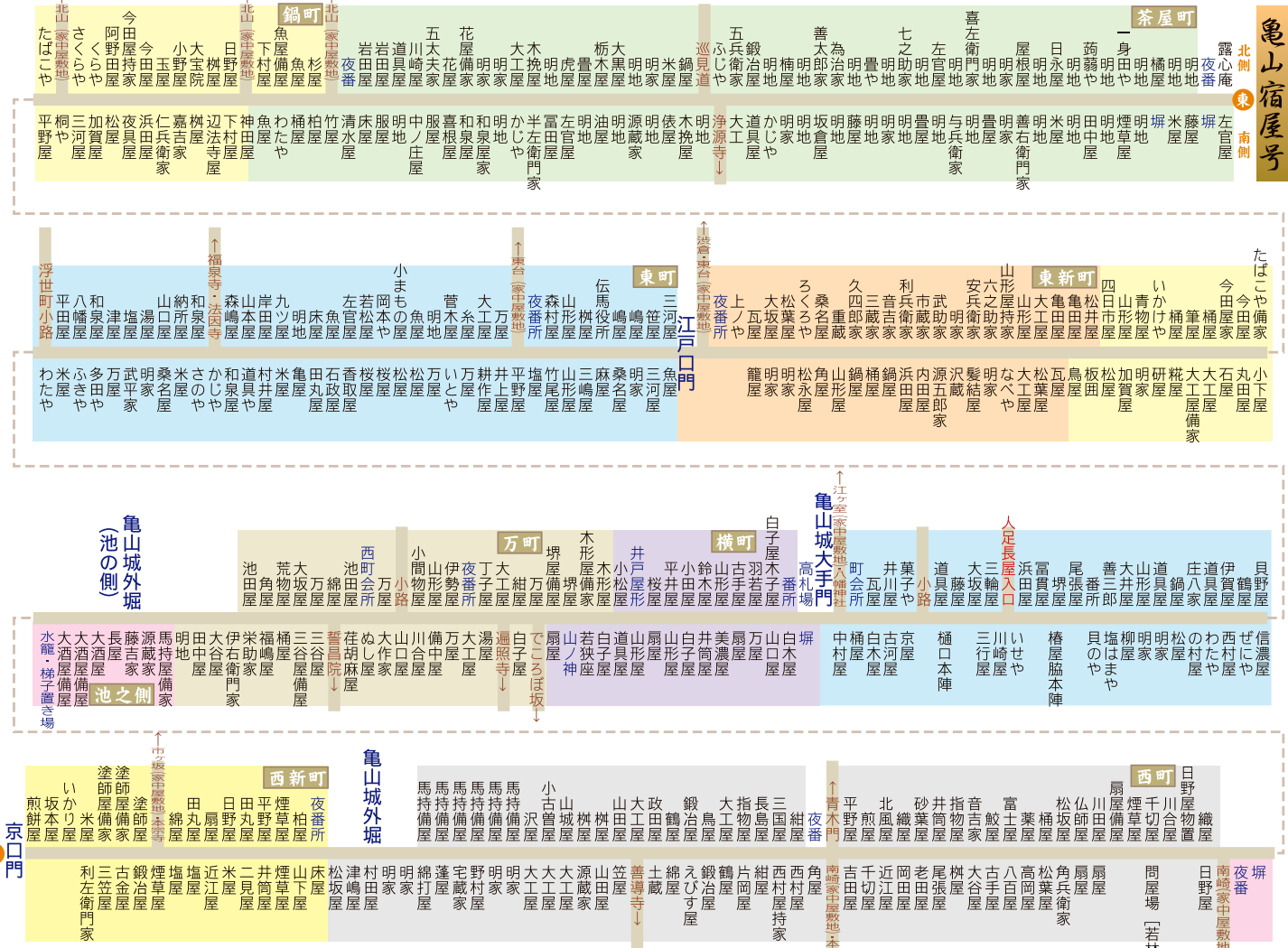
**地図 C**

亀山城下の東の入口です。水堀と土居で囲われた中に門と番所を構え、通行人を監視していました。

### 亀山城大手門跡

**地図 D**

東海道に直面する亀山城の正門で、簡略化された枳形門形式をとります。明治6年（1873）以降に全てが取り壊されましたが、門上に三間×十間の渡櫓を構えた壮大な姿は古写真からうかがうことができます。



※文久3年(1863)作成とみられる『宿内軒別書上帳』（亀山市歴史博物館蔵）をもとに作成しました。このため、現在伝えられている屋号とは一致しない部分があります。また、このデータにもとづき、市民グループの手によって亀山宿内には屋号看板が掲示されています。

# 亀山宿

東海道五十三次の内

イラスト案内図